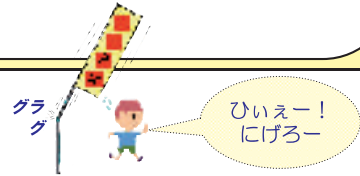


# 1. 台風に備えて



## 沖縄は台風の通り道

亜熱帯地域に位置する沖縄は、絶えず台風の通り道となっています。平成15年9月に宮古島を通過した台風14号は、過去30年間に沖縄に接近した台風の中で最大級の勢力で、最大瞬間風速74.1m/sを記録し、宮古島に甚大な被害をもたらしました。沖縄では、台風は”なれっこ”といった感じですが、突然の突風や大雨により大惨事になることもあります。台風が接近してくると、ラジオやテレビでしきりに台風情報が報じられます。風や雨が強くなってからの対策は非常に危険です。常に最新の情報を入手し、被害を最小限に防ぐよう、早め早めの対策を行いましょう!



## ○台風が近づくとこんな被害が・・・

家(建物)の中では・・・	家(建物)の外では・・・	海岸では・・・
<p>雨戸が無い窓は、風圧や飛来物で、窓ガラスが割れる可能性があります。窓ガラスが割れてしまうと、雨風が一気に室内へ入り込み、ガラスの破片が飛び散るなど非常に危険です。雨戸が無いガラス窓は、内側からガムテープを×印に貼り付けて、カーテンを閉めましょう。</p>	<p>家の外では看板が飛んできたり、街路樹が倒れてきたりする危険があり、非常に危険です。なるべく頑丈な建物の中に避難するようにしましょう。</p>	<p>風にあおられて海への転落、高潮・高波に巻き込まれる危険性があります。身の危険を感じたらすぐに高台に避難しましょう。また、高波を見に行くのは非常に危険な行為です。海岸に近づくのは絶対に止めましょう。</p>
	<p>強風によって根こそぎなぎ倒された街路樹 平成19年台風4号(新開)</p>	

## ○台風が近づいてくると情報を入手したら

① 雨、風が強くなる前に家の補強を	② 停電や断水に備え、非常用品のチェックを	③ 避難する時は落下物と足もとに注意して
<p>雨戸・窓ガラス・塀・外まわりの物干し・アンテナや看板等を補強しましょう。植木鉢は強風で倒されたり飛ばされるおそれがあるので風あたりの弱い場所に1か所にまとめておく安全です。</p>	<p>いざというときに、すぐに持ち出しができるように、日頃から、食料、飲料水、懐中電灯、ラジオ、ライター、簡単な医薬品などを揃えて、リュックサック等に入れ、すぐ持ち出せる所に保管しておきましょう。最近では市販の防災ベスト等もあります。</p>	<p>風が強い時は看板や瓦などの落下物に注意し、強風の中を避難する時は、お互いの体を縄で結び、先頭の人は棒等をツエにし、足もとに注意しながら進みます。</p>
<p>強風によって吹き飛ばされたプレハブ 平成19年台風4号(奥武島)</p>		<p>市道に落ちてきた岩 平成19年台風4号(志喜屋)</p>

## ・台風の風の強さと吹き方

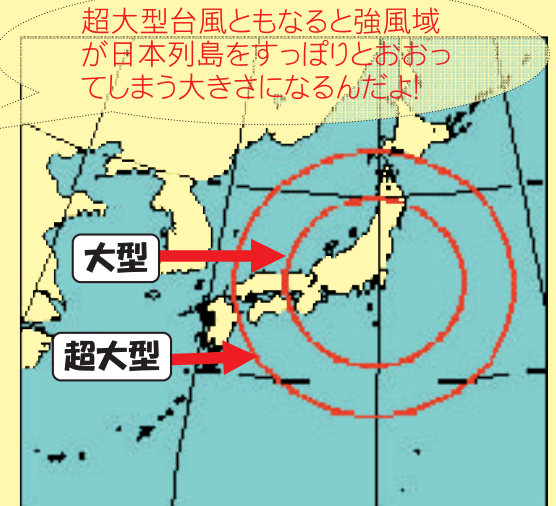
予報用語	平均風速 (m/秒)	イメージ	想定される被害
やや強い風	10～15	風に向かって歩きにくい。傘がさせない	取り付けの不完全な看板やタン等が飛び始める
強い風	15～20	風に向かって歩けない。転倒する人も出る	ビニールハウスが壊れ始める
非常に強い風 (暴風)	20～25	しっかりと身体を確保しないと転倒する。	飛来物等で窓ガラスが割れる。剛性シャッターが壊れる
	25～30	立ってられない	樹木が根こそぎ倒れ始める
猛烈な風	30～	屋外での行動は危険	木造住宅、プレハブ住宅等に全壊の被害が発生する

## ・台風の大きさと強さ

気象庁は台風のおおよその勢力を示す目安として、下表のように風速(10分間平均)をもとに台風の「大きさ」と「強さ」を表現しております。「大きさ」は「強風域(風速15m/s以上の強い風が吹いている可能性のある範囲)」の半径で、「強さ」は「最大風速」で区分しています。

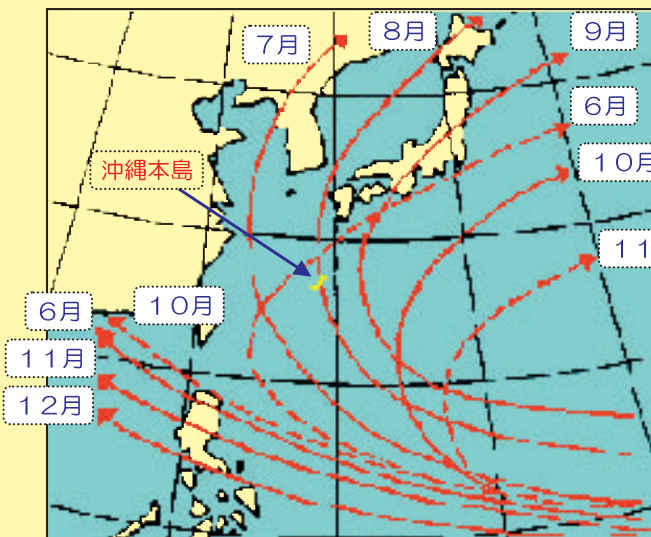
階級	最大風速
強い	33 m/s以上～44 m/s未満
非常に強い	44 m/s以上～54 m/s未満
猛烈な	54 m/s以上

階級	風速15m/s以上の半径
大型(大きい)	500 km以上～800 km未満
超大型(非常に大きい)	800 km以上



## ・台風の進路

台風は上空の風に流されて動き、また地球の自転の影響で北へ向かう性質を持っています。そのため、通常東風が吹いている低緯度では台風は西へ流されながら次第に北上し、上空で強い西風(偏西風)が吹いている中・高緯度に来ると台風は速い速度で北東へ進みます。



**台風の月別の主な経路**  
気象庁が観測した過去に日本付近を通過した台風の経路を統計からみるとおおむね左の図のようになります。台風は、春先は低緯度で発生し、西に進んでフィリピン方面に向かいますが、夏になると発生する緯度が高くなり、図のように太平洋高気圧のへりを回って日本に向かって北上する台風が多くなります。8月は発生数では年間が一番多い月ですが、台風を流す上空の風がまだ弱いために台風は不安定な経路をとりやすく、9月以降になると南海上から放物線を描くように日本付近を通るようになります。このとき秋雨前線の活動を活発にして大雨を降らせることがあります。

※注: 台風の進路はその時の気圧配置や、前線の影響で大きく異なる為、必ずしも、左図のように通過するとは限りません。